

2020年度【東京】

登録ALC基幹技能者講習 修了試験 問題

1. 試験時間：60分
2. 問題数：25問（四者択一式：「最も不適當」なものを選ぶ）
3. 注意事項
 - (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
 - (2) 受講番号と氏名を、解答用紙の所定の欄に正しく記入してください。記入がない場合や正しくない場合は、不合格となることがあります。
 - (3) 本冊子のページ数（問題記載ページ：1～8ページ）と試験問題数（25問）を確認してください。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には、黙って手を挙げてください。
 - (3) 机の上に置くことができるものは、「受講票」、「黒の鉛筆またはシャープペンシル」、「消しゴム」、「時計（携帯電話など、他の機能がないもの）」、「色鉛筆・マーカー等の印を付けるための筆記用具」です。
 - (4) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用できません。
 - (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ① 正解（最も不適當なもの）と考えるものを選択肢1～4の中から1つだけ選び、黒の鉛筆またはシャープペンシルで、解答用紙の回答欄に、その番号を記入してください。
 - ② 解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消した後、新しい番号を記入してください。
 - (6) 試験中、質問等があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
 - (7) 試験開始30分以降は、退室することができます。その際は、黙って手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
 - (8) 試験終了の合図があつたら、筆記用具を置き、試験監督者の指示に従ってください。
 - (9) この問題冊子は、持ち帰ることができます。なお、全会場の問題は、2020年度の全ての講習が終了した後に、正解と共にALC協会のウェブサイトで一定期間公開します。
 - (10) 試験開始の合図で始めます。

一般社団法人 ALC協会

問題 1 登録基幹技能者制度における建設技能労働者の目標像に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 将来展望
- 2 若年者入職
- 3 技能者定着
- 4 適正給与評価

問題 2 職業能力基準のイメージに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 レベル 1 の見習い技能者の経験年数の目安は、入職から 3 年である。
- 2 レベル 2 の中堅技能者の経験年数の目安は、4～10 年である。
- 3 レベル 3 の職長・熟練技能者の経験年数の目安は、5～15 年である。
- 4 レベル 4 の登録基幹技能者の経験年数の目安は、15～25 年以上である。

問題 3 登録基幹技能者制度の活用にあたって、工事現場配置の効果に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 施工管理
- 2 工程管理
- 3 安全対策
- 4 出来過ぎ

問題 4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 原価管理に係る基本的な知識を有し、常にコスト意思を持って行動することができる。
- 2 優れた技能に基づく十分な作業能力を有し、適宜一般の技能者に対する実地指導ができる。
- 3 物事を浅く広くとらえ、じっくりと時間をかけて適切な判断ができる。
- 4 調査・分析結果から、対象物の全体像と要点を掌握することができる。

問題5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 近隣住民を守る
- 2 統率力がある
- 3 決断力を持って行動する
- 4 理屈を言う前に実行する

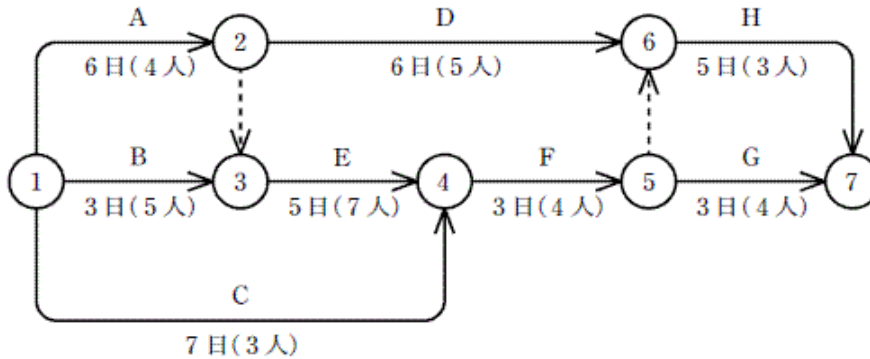
問題6 登録基幹技能者の現場において日常的に実施している業務に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 技能者への作業指示・指導
- 2 教育手順書の作成
- 3 施工計画書
- 4 労務の手配

問題7 レベルに応じた技能者の指導・教育に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 OJT は、見習わせることが重要である。
- 2 OJT は、経験させることが重要である。
- 3 OJT は、自己啓発を行わせることが重要である。
- 4 OJT では、教える→やらせてみる→修正する→やってみせる ことの繰り返しが重要である。

問題 8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



- 1 この図は、ネットワーク式工程表である。
- 2 この工程表のクリティカルパスは、A→E→F→Hである。
- 3 この工程表における工事の工期は、17日である。
- 4 作業Fの作業人員は4人である。

問題 9 法で定められた建設現場の各種安全管理に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 労働安全衛生法では、店社安全衛生管理者、統括安全衛生責任者、安全衛生協議会等の選任や設置が定められている。
- 2 安全衛生協議会（災害防止協議会）は、現場所長が議長となり、年2回程度、現場の全関係請負人を参加させ災害防止に関する協議を行う。
- 3 労働安全衛生法第16条では、「統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人は、安全衛生責任者を選任し、その者に統括安全衛生責任者との連絡等を行わせなければならない」と定められている。
- 4 高さが10mの構造の足場の組立てを行う場合は、当該作業の作業主任者が必要である。

問題 10 PDCAサイクルに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 第1段階では、安全の確保は当然のこととして、品質、工程、原価の面で優れた計画を練り上げ、計画段階でチェックのタイミングや品質基準値等の判断基準を適切に設定しておくことが重要になる。
- 2 第2段階では、計画に基づき適切に施工するとともに、実際の施工状態を容易に判断できるようなデータを正確に調査・記録しておくことが重要になる。
- 3 第3段階では、計画通りに実施されているか、調査・記録したデータを検証するだけでよい。
- 4 第4段階では、新たに計画を立てるのではなく、適切な処理を施すための方策について幅広く検討することであり、最も適切な処置方法を見つけ出すことが重要となる。

問題 11 施工要領書の周知方法に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 関係作業員全員参加のもとで説明する。
- 2 全体の工種、職種をまとめて説明する。
- 3 安全、品質、工程の管理上の急所を入れて、説明する。
- 4 近隣等の影響について説明する。

問題 12 会社経営と工事現場の原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 請負契約時に、ある程度精度のある見積単価を算出して、利益予測を行う。
- 2 見積原価の管理段階では、請負条件を明確にし、不明な点は質疑する。
- 3 請負契約後、現場条件に合わせた施工計画を詳細に検討し、実行予算を作成する。
- 4 実行予算を枠組みとして発注し、資機材や労務を管理するが、実行予算と実績を比較することはできない。

問題 13 専門工事業者の予算実績管理に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 現場においては、施工数量に対する人工数の目標を管理するよりも工程遅延がないように注意する。
- 2 原価管理では、契約した工事がスムーズに行くように先を見通して元請と打合せする。
- 3 他の外注業者との調整も必要になり、作業が滞ったり手戻りとなったりすれば、人工がかかって原価を圧迫してしまうことになる。
- 4 毎日の作業日報で契約内と契約外工事を明確にしておくとともに、毎週あるいは毎月とりまとめて元請に提出することが必要である。

問題 14 設計品質と施工品質に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 品質には設計段階で定められる「ねらいの品質」である設計品質と、施工段階で実現する「出来栄えの施工品質」がある。
- 2 発注者自身も関わって決めた設計品質を最終的に施工品質で実現することになる。
- 3 「仕様規定」は、求める品質がより具体的に表現され、その成否の判断も明快に行える一方、施工に関わる技術革新や経済・社会の変化への柔軟な対応が難しい。
- 4 「性能規定」は、詳細な方法を指定しないので、求める品質を明示し、それが満たされていれば良いとするが、総合工事業者や専門工事業者に対する権限と責任を広げるものではない。

問題 15 総合的品質管理の必要性に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 品質の確保・向上には、発注者をはじめ、建設コンサルタント、設計・監理者、総合工事業者、材料供給業者等の間で品質に関する考え方について共有することが必要である。
- 2 専門工事業者には、取引する再下請先や材料供給業者と一体の品質管理活動が求められない。
- 3 企業全体の参加、協力、統制による品質管理活動を総合的品質管理（TQC）と呼ぶ。
- 4 日本の高品質の源は、ボトムアップにあり、総合工事業者や専門工事業者による地道な品質改善活動によるところが大きい。

問題 16 足場からの墜落防止対策強化に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 高さ 2 m 以上の足場の組立てなどの際には、困難な場合を除き、幅 40cm 以上の作業床を設置する。
- 2 建設業の元請事業主等の注文者は、足場の組立てなどの後、次の作業を開始する前にその状態を点検し、危険のおそれがあるときは、速やかに修理しなければならない。
- 3 一側足場、つり足場を除く足場の作業床に関する墜落防止措置として、床材と建地との隙間を 30cm 未満とする。
- 4 鋼管足場のうち単管足場は、建地の下端に作用する設計荷重が最大使用荷重を超えないときは、鋼管を 2 本組としなくともよい。

問題 17 建設業法における建設工事の見積り等に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 建設工事の請負契約を締結する際に、工事内容に応じて、工事種別ごとに材料費、労務費、その他の経費の内訳を明らかにして建設工事の見積りを行う。
- 2 建設工事の注文者から請求があったときは、請負契約が成立するまでの間に当該見積書を交付する。
- 3 見積りを依頼する際に、元請負人は、工事名称や施工場所だけを明示すればよい。
- 4 下請負人が見積りを行うための期間は、見積金額によって異なる。

問題 18 ALC パネルの性能に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 耐火性能の性能値は、耐火時間で表示する。
- 2 耐荷重性能の性能値は、部位ごとの設計荷重で表示する。
- 3 耐荷重性能の性能値の単位は、N（ニュートン）である。
- 4 耐震性能は、慣性力に対する安全性能及び変形追従性能で表す。

問題 19 間仕切壁用 ALC パネルの取付け構法に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 縦壁ロックング構法
- 2 横壁アンカー構法
- 3 縦壁フットプレート構法
- 4 敷設筋(ふせつきん)構法

問題 20 ALC パネルの取付け金物及び鉄筋に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 取付け金物は、パネル製造業者の指定するものを使用した。
- 2 海岸の近くなどで塩害を受けやすい地域では、ALC パネルの取付け金物に溶融亜鉛めっきを施した鋼材が用いられることがある。
- 3 床用 ALC パネルの取付けに使用する目地鉄筋の径は、最低 6mm である。
- 4 取付け金物とは、パネルを下地に取り付けるための専用金物のことである。

問題 21 ALC パネルの補修用モルタルに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 補修用モルタルは、使用可能期間内であることのみを確認した。
- 2 補修用モルタルは、パネル製造業者の指定するものを用いた。
- 3 補修の下地となる ALC パネル面にはシーラーによる処理を施した。
- 4 補修用モルタルの保管は、湿気の多い場所や直射日光の当たる場所を避けた。

問題 22 敷設筋（ふせつきん）構法における屋根用 ALC パネルの取付けに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 ALC パネル端部のかかり代を、主要支点間距離の 1/75 以上、かつ 40 mm 以上とした。
- 2 ALC パネルを支持する小梁やかさ上げ鋼材の幅を 100 mm 以上とした。
- 3 開口部を設ける場合は、ALC パネルを有効に支持するための受け梁を適切に設置した。
- 4 ALC パネルを切り欠いた柱まわりなどで、下地鋼材を設けなかった。

問題 23 外壁用 ALC パネル工事に必要な足場に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 枠組足場など作業に安全な足場を外部に設ける。
- 2 外部足場の建地は、一般的にパネル外面から 70 cm 程度離れた位置に設置する。
- 3 建込み前に安全ネットなどを設ける。
- 4 最上部の足場の布は、吊り代を確保するために、外壁用 ALC パネルの頂部より 1m 程度高い位置まで設ける。

問題 24 ALC パネル工事の作業開始前の安全に関する打合せに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 毎日作業場所が変わるため、作業場所周辺の状況について説明する。
- 2 電動工具は、月に 1 回の点検を実施する。
- 3 資格を要する作業には、免許・資格を確認し、必ず有資格者を配置する。
- 4 作業に適する健康状態であることを確認する。

問題 25 ALC パネル工事における下地鋼材及び取付け金物の溶接に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 溶接部にアンダカット、クレーター及びスラグ巻き込みなどの欠陥がないように溶接した。
- 2 必要な溶接長さ及び溶接ピッチを確保して溶接した。
- 3 「エーエルシーパネル施工技能士」又は JIS Z 3801 の検定試験に合格した者が溶接した。
- 4 溶接部に防せい処理を十分に施すためスラグ除去作業を一部分省略した。

